

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	通所支援ベルテール第二南大沢園		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 1日		2025年 12月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	26	(回答者数) 20
○従業者評価実施期間	2025年 12月 1日		2025年 12月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 2日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・研修制度が充実しているため、職員が自身の知識やスキルを見直し、成長し続けていく機会が設けられている。	・月1回程度の研修の機会を設けている。各研修に対して報告書を作成することで、研修内容についてただ聞くだけではなく、自身で考え、アウトプットする機会が設けられている。	・非常勤職員等にも積極的な参加を促し、職員のスキルアップを目指す。
2	・保護者へのこまやかな説明・対応を職員全員が心がけて実践している。	・保護者との日々のコミュニケーションを大切にし、相談事などを受けた際には、職員間ですみやかに情報を共有することを意識しておこなっている。 ・定期的な面談の機会だけでなく、家族支援加算を使用した相談援助や、メッセージ等を使用したコミュニケーションを施設側からも提案している。	・各種相談援助の制度について、保護者会等であらためて説明をおこない、家族支援や子育てサポートを利用した相談援助に抵抗なく保護者が利用してくれるように周知していく。
3	・児童の状態像にあわせた活動プログラムを実施している。	・活動について事前に職員間で話し合い、児童一人ひとりの状態にあった取り組みになるよう工夫を重ねている。	・外部研修などに参加し、職員一人ひとりの療育で使える遊びや工作などの知識を増やして、バラエティーに富んだ活動を提供していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・事業所が2階にあるがエレベーターがないため、バリアフリー化がなされていない。また、建物の構造上、室内に段差が複数ある。	・建物の構造上の問題。	・室内の段差については、必要に応じて、板等を設置して簡易的・一時的なスロープとして使用する。 ・バリアフリー化がなされている物件に引っ越しをする。
2	・建物が古く足音が響いてしまうため、騒音問題に対応するために療育内容を限定する必要がある。	・建物の構造上の問題。	・防音マットの設置。 ・建物の大家さんに修繕を依頼する。
3	・地域に開かれた療育や近隣の保育所や児童館等との連携が不十分である。	・近隣の施設等との関りの機会がなく、関係性を築けていない。	・地域の施設に挨拶に伺い、今後連携ができるように関係性を築いていく。